☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１９

神戸新聞　令和２年２月７日（金）

東京パラリンピック開会に先立って行われる聖火リレーの採火式について、市町ごとの日程や会場などが６日発表され、丹波地域では、８月13日に丹波市春日町黒井の市民ふれあい広場、14日に丹波篠山市今田町上立杭の丹波焼「最古の登り窯」で、開催されることが明らかになった。（27面参照）

東京パラリンピック　聖火リレー採火式

高校生ら演出を提案

8月13日　丹波市

丹波市では、氷上特別支援学校と柏原、氷上、氷上西高校の4校が採火方法を共同発案する。同市によると、採火式は午前に開き、各校から3人ほどの生徒が参加。四つの火を熾した後、一つの点火台にともし「丹波市の火」として完成させる。採火した火をランタンにともして展示する「聖火ビジット」では、同支援学校の代表生徒が点火台からランタンに火を移し、同広場に置くという。生徒たちがパラリンピックの正式種目ボッチャを体験するイベントも予定している。

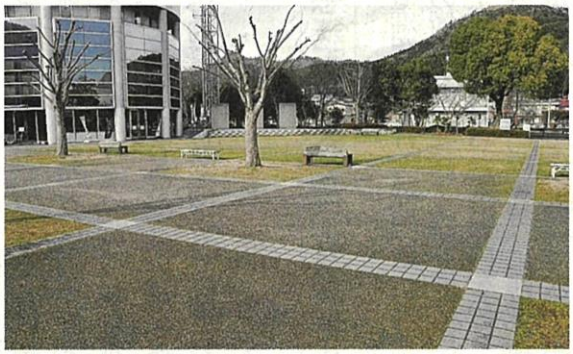
14日　丹波篠山市

「最古の登り窯」会場に

丹波篠山市では、日本六古窯の一つとして日本遺産に認定されている丹波焼の「最古の登り窯」の火から、障害者スポーツに取り組む選手が採火する。同市によると、丹波立杭陶磁器協同組合の協力を得て朝から登り窯で火をたき、夕方から採火式を開催。県障害者のじぎくスポーツ大会に出場経験のある選手2人ほどが採火する予定にしている。「丹波篠山市の火」として、ランタンを展示する聖火ビジットは、翌15、16日に開催される「丹波篠山デカンショ祭」の会場である篠山城跡三の丸広場で行うという。

県内では8月13日から17日にかけて、採火式(36市町)、聖火ビジット、各市町の火を「兵庫県の火」としてユニバー記念競技場（神戸市須磨区）に集約する集火式、火を東京へ送り出す出立式が催される。

（藤森恵一郎）



丹波市の採火式会場となる市民ふれあい広場＝丹波市春日町黒井

丹波篠山市の採火式会場となる丹波焼「最古の登り窯」＝丹波篠山市今田町上立杭（撮影・綱嶋葉名）